

南仏治安情報（10月分）

●テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）アルプ・マリタイム県における、イスラム原理主義者の検挙

14日、カンヌ、ムージャン、ヴァロリスにおいて、客年9月にヴァール・ドワーズ県サルセル市（パリ近郊）で発生したユダヤ人商店に対する襲撃事件に関与したとして、イスラム原理主義者3名が拘束され、うち1名の自宅からは短機関銃（ウージー）が押収された。

（2）マルセイユ周辺発生、テロ資金収集を目的とした恐喝事件（求刑）

パリ検察庁は23日、クルディスタン労働者党（PKK）活動家がマルセイユにある「クルド人民の家（MPK）」を拠点に同胞から革命税の名目で資金を強要し、トルコでのテロ活動に供した容疑で、同協会の解体並びにクルド人被告10人に対し禁固1年から4年を求刑した。

●殺人（邦人被害なし）

（1）マルセイユ発生、待ち伏せによると見られる殺人事件

27日未明、14区 Sainte Marthe 付近において、食肉産業王手「キング・ハラル社」のゼネラルマネージャーが、車で帰宅途中に射殺される事件が発生した。朝方に近所の住人が遺体を発見した際、車のエンジンは掛かったままであった。警察は、個人的な恨みか取引上の争いの線で捜査を進めている。

●強盗（邦人被害なし）

（1）BDR県 Celony 発生、一軒家を狙った侵入強盗事件

3日深夜、4人組の男達が邸宅の窓から侵入し、老夫婦を緊縛して暴行を加え、現金、貴金属類、キャッシュカード、携帯電話、パソコンを強奪し、さらには車を奪って逃走した。

（2）マルセイユ発生、少年らによる路上強盗事件

7日の午後、覆面を被った17歳の少年他3名の若者が、8区のマザルグ通り上で配達先を探していた宅配業者の頭を銃床で殴って襲い、化粧品等の荷物の載った車ごと奪って逃走した。しかし、犯人らは現場から数10メートルしか離れていない犯人1名のアパートに車を駐め、覆面のまま奪った荷物をアパートに搬入したことから警察に発見され、その後1名がアパートを出た際に身柄拘束され、部屋に残っていた残り3名も現場に配備された急襲部隊の説得に応じ投降して逮捕された。

（3）BDR県レ・ペンヌ・ミラボー発生、アップルストアを狙った強盗事件

8日午前中、覆面の武装集団4、5名がアップルストア店内に押し入り、倉庫にあった iPad やノートパソコンを大量に持ち去った。犯行に使用された車は燃やされた状態で発見された。

(4) BDR 県マリニャーヌ発生、一軒家を狙った侵入強盗事件

23日夜、目出し帽と手袋をした男4名が一軒家に侵入し、中にいた60代男性とその息子を脅し、現金や宝石類を物色した。被害者は暴行を受けなかったものの、精神的トラウマが残った可能性がある。

(5) アヴィニョン発生、老女に対する路上強盗致死事件

24日午前中、自宅前を歩いていた90代女性が少年3人組に肩掛けバッグをひったくられた。被害の際、バッグの吊り紐が体から離れなかったため女性は転倒して負傷し、その後死亡した。

(6) マルセイユ発生、ショッピングエリアにおける強盗事件

26日昼頃、6区パラディ通りの衣料品店"Bianco E Nero"に武装した強盗が押し入り、レジ内の現金と店長の腕時計を奪ってスクーターで逃走した。

(7) マルセイユ発生、スーパーマーケットを狙った強盗事件

27日昼頃、8区マザルグ通りのスーパー"DIA"に顔を隠した男3名が押し入り、銃と催涙スプレーで店員を脅してレジ内の現金1000ユーロを奪って逃走した。

●性犯罪（邦人被害なし）

(1) トゥーロンにおける、強姦事件判決による被疑者の釈放

1日、2009年から2012年までの間、姪（現在15歳）を強姦してきた疑いで逮捕・起訴されていた元軍人男（27歳）の裁判が開かれ、大方の予想に反し、条件付（週一回出頭、出国禁止）釈放という「寛大な」処分となった。

●誘拐・立て籠もり

把握なし

●傷害（邦人被害なし）

(1) BDR 県 Vitrolles 発生、サッカー選手刺傷事件

6日夕方、プロヴァンス地方のアマチュアサッカー1部リーグ戦の直後、Vitrolles チームの選手が相手チーム選手の兄弟と口論を起し、ナイフで胸を刺され病院へ搬送された。犯人は逃走したが、目撃者が車両ナンバーを覚えていたことから発見・逮捕された。

(2) BDR 県レ・ペンヌ・ミラボー発生、重傷傷害事件

18日夜、バーの店内で30歳男性がカードゲームに興じていたところ、突然店に入ってきた目出し帽の男に下半身を銃で撃たれ負傷した。

(3) マルセイユ発生、レストランでの集団暴行事件

23日夜、市内中心街にあるレストランの客とウェイトレスに絡んできた男達に対し、店長が現場証拠とするため写真撮影したところ、激高した男達が5人がかりで店長を殴打した。店長は病院へ搬送された。

●薬物関連

(1) カンヌ他における、麻薬密売組織構成員の検挙

10月初旬、ニース司法警察が麻薬密売容疑でカンヌ、アンティープ、ヴァロリスに住む男3名を逮捕した。本件被疑者はイタリア当局により2年間捜査されてきた犯罪組織のメンバーであった。

(2) マルセイユにおける、薬物密売者の検挙

10月下旬、15区にある大麻・コカイン密売で悪名高い地域にて、32歳の売人が逮捕された。

●その他特異事件（邦人被害なし）

(1) コルシカ島アジャクシオを中心とする犯罪組織の検挙

1日、司法当局は「プチ・バー組」と呼ばれている犯罪集団の首謀者と目されるジャック・サントニ（35歳）他を逮捕し、同人をパリ郊外の刑務病院へ収監した。また「恐喝及び資金洗浄を目的とした犯罪集団形成」の容疑で予審開始が決定した。

また、「プチ・バー組」に所属する別の3名が、2012年10月発生の弁護士殺害容疑で事情聴取を受けた。

「プチ・バー組」はアジャクシオを中心にゆすり、麻薬密売、銃撃、殺人を展開し、国際犯罪にも手を染め、スペイン南部と仏本土との麻薬取引、ベネズエラ・ベトナムでのカジノ経営を財政基盤としている。

(2) マルセイユ及びコルシカ島在住者による改造銃製造・販売事件（判決）

3日、マルセイユ軽罪裁判所が、改造銃の製造及び販売の罪でマルセイユ在住の射撃クラブ代表とアジャクシオ在住の銃収集家に対し6年及び4年の禁固刑を下した。

同人らは100丁近くの改造銃を密売しており、これらの銃はコルシカ島での報復事件に使用されたり殺し屋の手に渡ったりしていたことが判明している。

(3) ガール県庁、ドローム県庁他に対する脅迫事件の発生

10月中旬、県庁及び地元紙に、高圧電線鉄塔のボルトを外した旨の脅

迫文が届いた。同内容の脅迫文は本年8月にも届いており、その際は鉄塔のものと見られるボルトが同封されていた。

差出人は、原子力発電所や高圧送電線鉄塔網が安全を確保できていないまま利益追求しており、その証拠に前回外した鉄塔のボルトについても同箇所を発見・修理できていないと主張しており、この主張は「点検の結果ボルト抜き取りの形跡は認められなかった」と表明した同管理会社と対立するものとなった。

(4) コルシカ島バスチアにおける、マネーロンダリング摘発

15日バスチアにおいて、マルセイユのギャング幹部の息子夫妻がマネーロンダリング容疑で逮捕された。バスチア市司法警察は現在5名を取調中で、その中には銀行家及び公証人も含まれている模様。本件捜査の端緒は賭博事件と見られており、前記ギャング幹部も当時容疑者に含まれていたものの釈放された経緯があり、警察当局が不審な資金の流れを解明するため新たな捜査をしたものと見られる。

※ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。